

12月20日のウクライナ情報

安齋育郎

●フィヨドル・ルキヤノフ(Fyodor Lukyanov):ウクライナ和平合意に関するアンゲラ・メルケルの爆弾発言をどう説明すればいいのだろうか？(Profile.ru RT War in Ukraine #2153、2022年12月15日)

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraines-war-situation-aow2154.html>

リード文

フィヨドル・ルキヤノフ:アンゲラ・メルケル首相のウクライナ和平協定に関する爆弾発言をどう説明すればいいのだろうか？

本文

ドイツのアンゲラ・メルケル前首相が、ドイツの新聞「ディー・ツァイト」のインタビューで語った発言が、コメンテーターの間で波紋を呼んでいる。

「2014年のミンスク協定は、ウクライナに時間を与えようとしたものだった」と彼女は認めた。

「そして、その時間を使い、今日のように、(ウクライナは)より強くなった」のである。

2014/2015年のウクライナは、今日のウクライナではない。こうしてメルケル首相は、ウクライナ政府関係者、とりわけピョートル・ポロシェンコ元大統領の、キーウは和平協定を履行するつもりはなく、ただゲームをしているだけだという言葉に裏付けることになった。

元長官であるドイツ政府のトップは、そのような宣言をすることを余儀なくされたわけではない。だから、彼女(メルケル)の発言を文字通りに解釈するのは当然だ。つまり、ごまかしを認めた、いや、むしろ意識的にごまかしたと解釈するのが正しい。

これはモスクワが以前から言ってきたことを裏付けるものだ。ウクライナは和平プロセスに参加するふりをしていて、実際には復讐の準備をしており、西側諸国(直接の参加者としてのドイツとフランス、間接の管理者としてのアメリカ)はこの二枚舌に協力していたのである。

これはかなり単純化された解釈であり、現実はもっと違っていたのではないかと、あえて推測してみたい。というのも、意識的に選択された行動は、より混沌とした代替案よりも理解しやすいからである。

和平協定が結ばれたときも結ばれなかったときも、メルケル首相に特別な下心がなかったと考えるのが妥当だろう。いずれの場合も、ベルリンとパリは、欧州の平和と安全のために努力していると心から信じていたのである。

二度目の挑戦でなんとか発効したミンスク協定は、ウクライナの軍事的敗北の結果であり、そのため西側支援者の任務は、どんな手段を使ってでも戦闘を阻止することだった。当時、一部では、メルケル首相がポロシェンコ大統領に文書案に署名しないよう進言したのは、文書に記された条件がモスクワに有利であることを理解していたからだと言われていた。

ミンスクで提示されたドンバス返還の特別条件(※安齋注:特別の自治権を与える)によって、キエフの地政学的な動きを阻止する一種の「ストップバルブ」をロシアが持つことができるという考えは、ロシア

側にとって好都合であった。クレムリンはこれが可能だと考えていたようだが、このアプローチに反対する者もいた。

ウクライナ側は、最終合意などあり得ないと考える伝統的な政治文化に導かれていた。つまり、今署名して、それから様子を見ようということである。ベルリン(当時はフランソワ・オランドが代表を務めていたパリは別に考えるべきでない--フランス大統領は当時、メルケルの片腕として行動していた)が思いついた、ある種の狡猾な計画があったのだろうか。そうではない。むしろ、2つの本能が働いていたのだ。

第一は、ウクライナは先験的に正しく、ロシアは誤りであり、具体的な事情は重要でないというものであった。もう一つは、この問題をどう解決するかということを中心に考え、当時のヨーロッパ政治にとって一般的に二の次であった問題に気を取られないようにするために、すべてを水に流す方法を考えようとしたことである。

しかし、後者の方法は、今となってはうまくいかなかった。現実には、メルケル首相が今言っているような路線で物事は進んでいった。**ミンスク合意は、ウクライナを再武装させ、ロシアとの戦争に備えるための時間を稼ぐものだった。**

しかし、これが本来の意図であったと考えるのは、西ヨーロッパの戦略的才能を誇張することになる。もちろん、もしミンスク協定が参加者たちによって、(今言っていることとは違ふとはいえ)ある目標を達成するための真剣な道具とみなされていたなら、おそらく有用な役割を果たしたことであろう。

しかし、すべての側が、宣言されたものに加えて実際の議題を持っていたため、このプロセスは本当に全く別のものための煙幕となった。

メルケル首相、ミンスク和平合意の欺瞞を認める - ロシア 逆説的だが、敗者は2つの議題の間のギャップが最も小さい者であった。

ロシアが「宣言した目的」と「真の目的」は、他の国々に比べてあまり異なっていない。また、モスクワはミンスク協定をできるだけ文言通りに履行するよう求めたが、他の国は-メルケル首相の発言から-少なくとも時間稼ぎ以外の何物でもないと見ていた。

メルケル首相がなぜこのような発言をするのか、その理由は明らかである。現在の欧米の枠組みでは、プーチンとの外交は、たとえ遑及的に、一見善意に見えるものであっても、犯罪的な共謀とみなされるからである。

シュレーダー首相時代から「相互依存による和解」に大きな投資をしてきたフランク・ヴァルター・シュタインマイヤーは、「自分が間違っていた、申し訳ない」と謝るだけである。しかし、メルケル首相は、当時の状況を現在の状況に合うように作り変えて、合理的な言い訳を探している、いや、むしろ作っているのである。

しかし、それはプーチンが指摘していることを裏付けるような形で行われている。それじゃ、どうやって交渉するんだ？しかし、それはすでに誰にとっても興味のないことである。ミンスク合意は過去のものであり、紛争の1つの局面を終結させたに過ぎない。

一方、現在は質的に異なる別の紛争が勃発している。2014年から2015年にかけての交渉と似たようなもので終わるとは、とても考えられない。実際、これまでのところ、交渉について語られるとき、何を意味しているのかさえ、まったく明確ではない。

何について交渉するのか？膠着状態にあるすべての当事者がすでにその存続を宣言しているのだから、どんな妥協があるのだろうか。とはいえ、ミンスク協定の政治的教訓を、後日ではなく今思い出すことは有用である。(この記事は Profile.ru に掲載されたものであ。



●メルケル発言の一つの見方(2022年12月16日)

あるツイッターの感懐:自分はこの時期にメルケルがこれを吐露したことは、やはり戦争を終わらせたいという思いからだと思っている。これ以前からメルケルは欧米はプーチンの言い分も聞くべきだと発言していたし、だから事態の推移を見ていよいよ隠せなくなったのだろうと推察する。甘い見立てだと嗟われても自分はそう思う。

●スタンフォード大、ハーバード大、NASA が今でもナチスの過去を尊重しているのはなぜか?—NYT(ニューヨーク・タイムズ): 米国は、ハーバード、スタンフォード、NASA に名を連ねる人々のナチスの過去について沈黙している(2022年12月15日)

リード文

米国では、ナチスは白塗りされており、その名前はハーバード、スタンフォード、NASA のケネディ宇宙センターのプログラムを飾っています、と NYT は書いている。彼らの過去は単に無視される。レフ・ゴリンキン(回想録『バックパック、クマ、ウォッカの 8 つのケース』の著者)

本文

今年、ハーバード大学は奴隷制から利益を得ていると告白した。

ローレンス・バコウ学長は公開書簡で、「個人、ハーバード大学、そして私たちの社会全体に対する、この歴史的な不正の永続的で破壊的な結果を排除するために、可能な限りのことをすることが私たちの道徳的責任であると考えている。このトピックに関する研究は、エリート教育機関による暗い過去を解決するための長い間延期された試みとして提出された。

しかし、アメリカの奴隷貿易における彼の役割は、暗い瞬間の 1 つにすぎない。ハーバード大学には、ナチスの戦争犯罪人アルフリード・クルップを称える奨学金と教授職が今も残っている。クルップの産業帝国は、約 10 万人の強制労働者の奴隷労働を利用していた。

そして、ハーバードだけではない。NASA からスタンフォードまでのアメリカの機関、さらには米軍でさえ、元ナチス高官を認めるだけでなく、時には彼らを称賛することさえある。

そして、私たちは、入国管理局をうっかりすり抜けた未知の強制収容所警備員について話しているのではない。エリック・リヒトブラウとアニー・ヤコブセンの作品のおかげで、アメリカとの関係がよく知られている歴史上の人物である。

ハーバード大学、スタンフォード大学、NASA のケネディ宇宙センターおよびアラバマ州ハンツビルにある多数の機関のプログラムを飾った名前を持つ人々のナチスの過去を白塗りすることは、沈黙による欺瞞によって成功している。歴史は消去され、不都合な伝記は破棄または省略される。

米国はどのようにしてナチスの悪との戦いから元犯罪者を称賛するようになったのか？ それはすべて、モスクワと西側の間の軍事「蜜月」の終わりに始まった。ドイツが敗北し分裂したとき、スターリンのソビエト連邦はすぐにアメリカの最悪の敵になった。

クレムリンに対抗するために、ワシントンはテクノロジーと裕福な西ドイツをヨーロッパ全土への共産主義のさらなる広がりに対する防波堤として必要としていた。元ナチスには貴重な経験があった。

そして、第三帝国の一握りの著名人がニュルンベルクで絞首刑にされた場合、他の多くの黒い過去は単純に消され、すべてをゼロから開始し、冷戦のパートナーや同盟国に昇格させることができた。

1960年代までに、宇宙開発競争が本格化し、元 SS 将校のヴェルナー・フォン・ブラウンは、米国大統領との関係が本格化した。メディアは彼を、アメリカを月に送る数学の魔法使いのように描写した。言い換えれば、私たちは彼のサービスを利用しただけでなく、彼をヒーローにした。

戦後 30 年も経たないうちに、ハーバード大学がアルフリート・クルップ・フォン・ボーレンとハルバツハ財団から 200 万ドル（現在のインフレ調整後の金額で約 1200 万ドル）を受け取ることが発表されたが、誰も抗議しなかった。その年は 1974 年で、資金はヨーロッパ研究の椅子を作成し、関連する奨学金を支払うために使用された。

ニュルンベルクでは、大富豪で実業家のアルフリート・クルップが戦争犯罪と人道に対する罪で有罪判決を受けた。彼の会社は、アウシュヴィッツの囚人によって建設された工場を所有していた。捕虜や子供を含む約 100,000 人の強制労働者を雇用した。ハーバードがクルップのお金を受け取ったとき、学生新聞ハーバードクリムゾンは次のようにコメントした。（1951 年、クルップの判決は減刑され、釈放された。）

ハーバード・クルップ奨学金とクルップ教授のウェブサイトは、創設者が戦争犯罪者として有罪判決を受けたという事実について一言も述べていない。

同じクルップ財団は、ドイツの学生のためのスタンフォードインターンシッププログラムも後援しており、これは「ユニークで権威ある」として紹介されている。クルップが戦犯だったという事実は、ウェブサイト一度だけ言及されている。

しかし、ヒトラーの致命的な V-2 弾道ミサイルを開発した第三帝国の科学者であるフォン・ブラウンとクルト・デブスのあからさまな白塗りと比較すると、クルップのリハビリでさえ見劣りする。それらも、ドーラ・ミッテルbau 近くの悪名高い地下施設で非人道的な条件で働いていた強制収容所の囚人によって建てられた。

ロケットの製造で少なくとも 10,000 人の奴隷が死亡した。囚人を解放したアメリカ兵は、やせ衰えた死体が散らばる恐ろしい場所を発見したとき、吐き気を抑えることができなかった。

しかし、フォン・ブラウンとデブスがナチ党に所属していたとしても、ワシントンが元ナチスの科学者をアメリカで働かせるという悪名高いペーパー・クリップ作戦で彼らが職を得ることを止めなかった。



フォン・ブラウンは最終的に、アメリカの宇宙探査の初期の中心地であるハンツビルに引っ越した。今日、街の中や周辺には元ナチスの多くの記念碑がある。アラバマ大学ハンツビル研究ホール、シアター アーツ センター、プラネタリウムには彼の名前が飾られている。

「フォン・ブラウン博士 (Dr. Wernher von Braun)と彼のロケット科学者チームは、1950 年代に「世界のクレソンの首都」と呼ばれたアラバマ州ハンツビルを、アメリカ最大の技術センターと 2 番目に大きな研究公園に変えた。

有名なスペース・キャンプ・プログラムが開催されるスミソニアン研究所の博物館、アメリカン スペース・アンド・ロケット・センターのセクション。(センターのスポークスウーマンは、サイトは「進行中の改修」中であると述べ、追加のコンテキストを提供すると約束した。)

一方、フォン・ブラウンは、スペース・キャンプのウェブサイト、アラバマ大学ハンツビル校の歴史のページ、フォン・ブラウン奨学金の説明、2019 年の当時のスピーチでさえ、あらゆる場所で栄誉を称えられている。

ロバート・アルテンキルヒ大統領 - そしてどこにも言及されていない。ナチスも奴隷労働もない(ただし、大学がロケット技術と強制収容所の囚人の仕事についてフォン・ブラウンに言及したページを持っている場合を除く)。

フォン・ブラウン・センター・フォー・ザ・パフォーミング・アーツに関しては、ハンツビル市の役人は「歴史的な文脈を与える」ための継続的な努力を報告した。1 ページを修正するのにどれくらいの時間がかかるか？

これらの除染された話から、過去を持たないこの男が、天体物理学者の一種のメリー・ポピンズをどこからともなく手に入れて実体化したという印象を受ける - 飛んでハンツビルの人々にロケットの作り方を教えた。



ナチスの過去が完全に放置されていることが多いように感じる。これは、カート・デバス(Kurt Debus)博士の会議室があるフロリダ州の NASA のケネディ宇宙センターの場合である。NASA の Web サイトにある Debus の公式の伝記には、ドイツでの彼の生活についての短いあいまいな段落しか含まれていない。

6月24日、ケネディ宇宙センターのジャネット・ペトロ所長は、フロリダ・ナショナル・スペース・クラブ委員会からカート・デバス博士賞を受賞しました。

このイベントに関する NASA のページには、デバス(Debus)の天文学的業績がリストされているが、SS での彼のメンバーシップや、V-2 の作成への直接の参加については一言も述べていない。

しかし、おそらくナチスの白塗りの最も顕著な例は、ハンツビル近くの軍事基地であるレッドストーン工場であり、建物全体の複合体はフォン・ブラウンにちなんで名付けられている。歴史のセクションには数十枚の彼の写真が掲載されており、彼の伝記には、彼がドイツ砲兵総局に勤務し、V-2 が開発されたセンターのテクニカル ディレクターであったことが記載されている。第三帝国がその助けを借りて民間人の生活を地獄に変えたことだけは言及していない。

私たちの軍隊は連合の多くの賞賛をゆっくりと取り締まっていくが、ヒトラーの武器の鍛冶屋の高揚は何も起こらなかったかのように続いている。陸軍、NASA、主要な大学などの機関が、何千人ものアメリカ兵の犠牲を頑固に侮辱しながら、公然とナチの銃工を称賛していることは驚くべきことである。

※安齋注:安齋は最近著『戦争と科学者』(かもがわ出版、2022年4月刊)において、ヴェルンハア・フォン・ブラウンも取り上げた。彼は、1937年にナチス党に入党し、親衛隊(SS)少佐にまで昇進した人物である。フォン・ブラウンは、軍事兵器の開発に専念すべきなのに個人的な宇宙開発の願望を語り過ぎたという理由で国家秘密警察(ゲシュタポ)に逮捕されたが、ヒトラーの説得によって釈放されるほど、ヒトラーの信任を得ていた。

1945年5月、ドイツの敗戦が確実になった時、フォン・ブラウンはアメリカへの降伏を計画し、5月5日、米軍の尋問に対して「ドイツにおける液体燃料ロケット開発の調査とその将来性」という報告書を提出した。これはアメリカの宇宙開発のロードマップとなった文書であり、6月20日、コーデル・ハル米国务長官はフォン・ブラウンの米国への移送を承認した。アメリカには国家戦略の遂行に役立つ限り過去を問わないという悪弊があるように思われるが、日本の細菌戦関係者についても、アメリカは731部隊の研究資料をすべてアメリカに引き渡すのと引き換えに責任を免除する密約を交わしたと言われている。

●アンクル・サム(米国)に仕えた元ナチス;米国はいかにしてドイツの主要諜報機関を支配したか(2022年12月15日)

原文リード:ドイツは、NATO や G7 などを通じ、米国との外交政策コースを調整しているが、その1つが正式には独連邦情報局(BND)と呼ばれる対外諜報機関である。BNDはWW2後、元ナチスと親衛隊の将校により民間諜報機関として設立され、その管理は完全に米国的手中(手先)にある。

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraines-war-situation-aow2158.html?s=09>

※安齋注:長い論説なので、URL経由でご覧になって下さい。読む価値はあると思います。



●ナチズムの美化に反対するロシア提出の国連決議にドイツ、日本、イタリアは反対(2022年12月16日)

<https://twitter.com/ashtwice/status/1603584674739392512/photo/1>

国連総会ではナチスの英雄化に反対するロシアの決議案が賛成多数で可決された。一方、日独伊、及び西側の国々は反対、または棄権した。

決議案は「ナチスの英雄化、さらにはネオナチ、民族差別、人種差別、排他主義、およびこれらに関連した非寛容的態度の悪化を促す全ての現代的形態に対する戦い」と題され、賛成 120、反対 50、棄権 10 で可決した。

決議案では、第二次世界大戦期に行われた人道に対する犯罪、及び戦争犯罪を否定し、先の大戦の結果の改ざんを阻止することを目的とし、人権に関する国際的義務に準ずる形で法律や教育の分野で各国に具体的な措置を講じることを要求するもの。

反対した 50 カ国にはドイツ、イタリア、オーストリア、カナダ、チェコ、エストニア、フランス、ハンガリー、日本、ラトビア、ポーランド、スペイン、ウクライナ、英国、米国が含まれる。

アフガニスタン、エクアドル、ミャンマー、パラオ、パナマ、パプアニューギニア、韓国、サモア、スイス、トルコは棄権した。

反対した国々は、ロシアがこの決議を利用してウクライナにおける特別軍事作戦を正当化しようとしていると指摘した。これに対し、ロシアのゲンナジー・クズミン国連副大使は国連総会で次のように発言した。

「決議に反対した国々、とりわけドイツ、日本、イタリアはナチスドイツ、イタリアのファシズム、日本の軍国主義による犠牲者の記憶に対し露骨な冒瀆を展開した……反対票を投じれば、ロシアがウクライナで展開する特別軍事作戦を非難できるとでもお思いか」

この決議案は例年、賛成多数で可決されている。国連副大使によると、**旧枢軸国がこの決議案に反対するのは国連誕生以来初めてだ**という。



●「ナチスどもが自分の陣地を無くし始めた」(2022年12月16日)

<https://twitter.com/nanpinQD/status/1603697957127487491?t=adRR3CaXgEP9dpBza1POw&s=09>

ドネツクの女性、砲撃の頻度が高まった理由を解釈する。このおばさんは、戦禍の激しさの中にあつて、変化を感じ取り、「ナチスどもが自分の陣地を無くし始めた」と解釈している。

下の女性は同じ体験者ですが、違う感じ方をしています。「一昨日砲撃されたばかりなのに、また！」ドネツクの市民がウクライナ軍は町の中心に何度も砲撃を繰り返していると語る。

<https://twitter.com/i/status/1603697130522435585>



●ウクライナのすべての地域での航空警報(2022年12月16日)

ウクライナは、キエフを含む国のすべての地域で空中警報音を聞いた。

航空警報は、12月16日金曜日、ウクライナのすべての地域と首都とその周辺で発動された。最初のサイレンは現地時間午前7時52分に聞こえた。

ニコラエフ地域の知事であるヴィタリー・キムによると、約60発のミサイルが国に向けて発射される。

ロシア軍は10月10日以来、ウクライナのエネルギーと軍事インフラを攻撃している。これらの爆撃は、ロシアがキーウを非難しているロシアのクリミア橋への攻撃の2日後に始まった。

ポルタヴァ、ハリコフ、クレメンチュグの各市は停電していると、それぞれの市長がソーシャルネットワークで発表した。クレメンチュグでは、暖房もオフになった。

08:56 16.12.2022

ハリコフ地下鉄は、その路線の交通の一時停止を発表した。

08:51 16.12.2022

ハリコフ、オデッサ、ドニエプロペトロウシク、ポルタヴァ、クリヴョイ ログ、ニコラエフ、スミ、ヴィニツァの各地域の当局は、爆撃の脅威について住民に警告している。

ハリコフはまた、電力供給に衝撃を与えている。

08:16 16.12.2022

ハリコフのインフラサイトで爆発音が鳴り響くと、市長はテレグラムのアカウントで報告している。

ウクライナのメディアは、キーウとハリコフ地域だけでなく、ドニエプロペトロフスク地域でも爆発を報告している。



●ウクレネル、エネルギーシステム消費量の 50%超が失われたため、緊急事態を宣言 (2022年12月16日)

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraines-war-situation-aow2170.html>

ウクライナのエネルギー会社ウクレネルゴは非常事態を宣言した。これは、同社の声明を引用して、12月16日金曜日に Strana.ua Telegram チャンネルによって報告された。

暗い話:ウクライナでの最初の停電がどうなるか

歴史上初めてキーウは 3 つの原子力発電所をすべて停止させた

「ロシア連邦からの大規模なロケット攻撃の結果、統合エネルギー・システムの消費量の 50% 以上が失われた。これは、体系的な事故が発生したことを意味する」と報告書は述べている。

なお、12月16日9時から非常事態宣言が発令された。

その日の早い段階で、ウクライナのエネルギー省のヘルマン・ガルシチェンコ長官は、国のエネルギー施設が東と南で被害を受けたと述べた。

その後、ウクライナのいくつかの地域が完全に停電していることが知られるようになった。クレメンチュグ、ポルタヴァ地域、ハリコフ、キロボグラード地域では光と暖房が失われた。

12月16日、ウクライナ全土に航空警報が発令された。当局とメディアは、キーウ、キエフ、テルノーポリ、ハリコフ地域で爆発があったと報じた。

同時に、ウクライナでの事件や12月16日の攻撃の可能性に関して、ロシア国防省からは何のコメントも得られなかった。

前日、ウクレネルゴは、ウクライナのエネルギーシステムで電力が大幅に不足していると発表した。気象条件によって状況は非常に複雑である。

12月12日、ウクライナのゼレンスキー大統領は、ジョー・バイデン米国大統領とのインタビューで、ロシアのミサイル攻撃によりウクライナのエネルギー・インフラの半分が破壊されたと述べている。

